

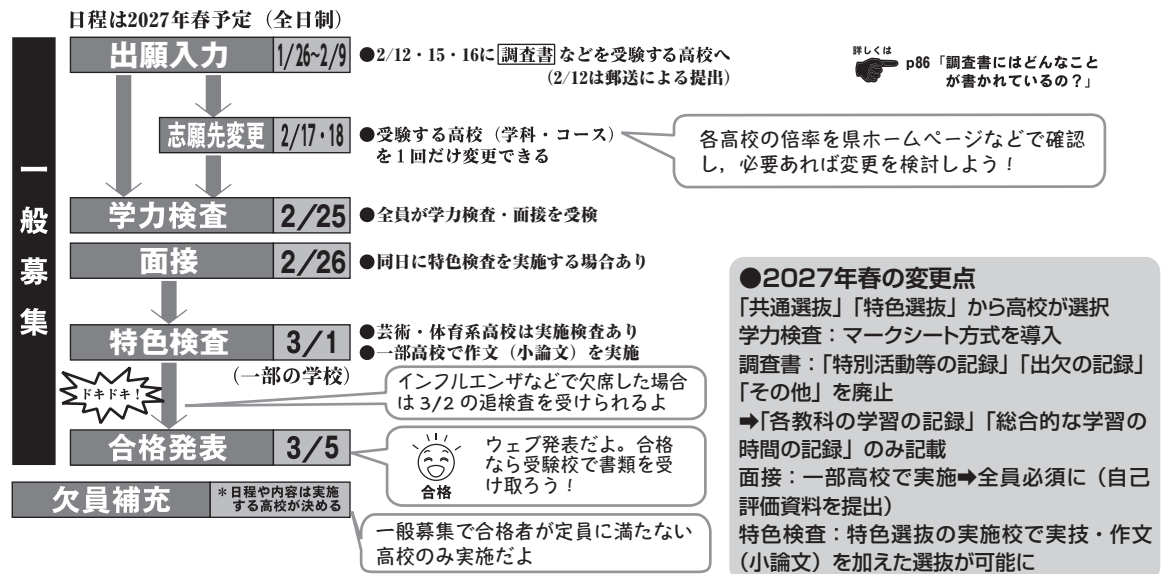
# 埼玉県公立高校の入試システム

[2026→2027年春]

基本の『き』

## 1 入試の流れはどうなっているの？

2027年春から面接を全員必須に、特色選抜を導入

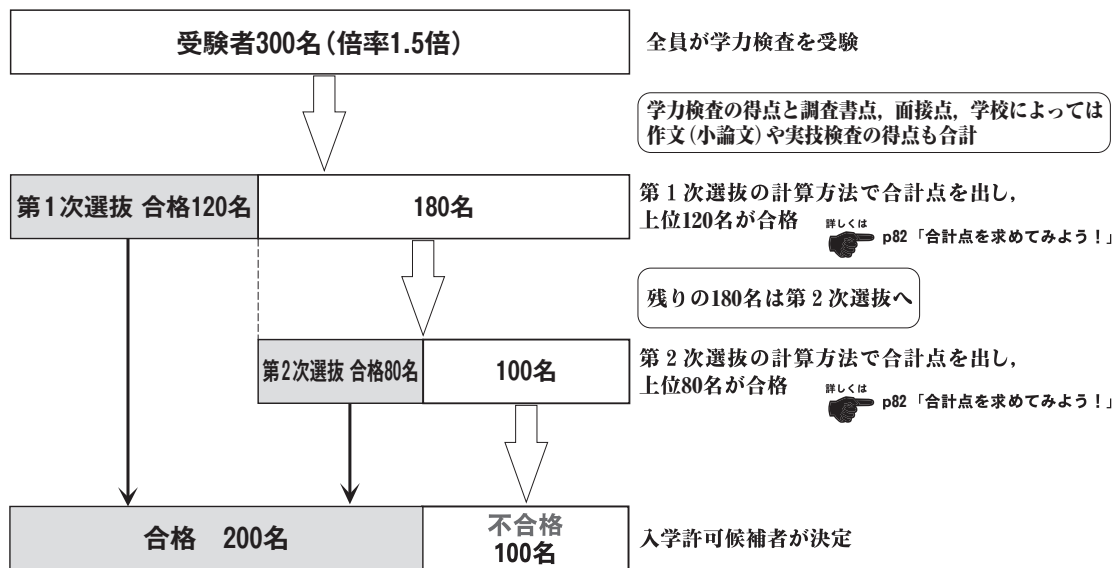


基本の『き』

## 2 合格者はどうやって決められる？

学力検査・調査書・面接(・特色検査)の配点が異なる2段階の選抜

■定員200名/受験者300名「第1次選抜60%」「第2次選抜40%」の場合



\*受験者の得点状況により、人数は若干の変動があります。

押さえておきたい基礎知識

## 1 選抜実施内容…入学者を選抜する資料の配点や扱い方を記載

自分の志望校は何を重視しているのか？ 高校ごとに選抜資料の配点などを定めているので、気になる高校の選抜実施内容は必ず確認しましょう。

令和〇年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施内容

全日制	埼玉県立〇〇高等学校					普通科						
目指す学校像	〇〇〇〇〇〇〇〇〇を目指す学校										定員の比率 1次「共通選抜」・2次「共通選抜」 1次「特色選抜」・2次「特色選抜」 の場合→1次60~80%、2次20~40% 1次「特色選抜」・2次「共通選抜」 の場合→1次20~80%、2次20~80%	
入学者の受入れ(に関する方針(アドミッション・ポリシー))	〇〇〇〇〇に積極的に取り組む生徒											
募集学科等	基本点:100点×5教科=500点満点 「特色選抜」の場合 →高校により3教科まで「150点」または「200点」の傾斜配点が設定可					普通科 1次「特色選抜」・2次「共通選抜」で実施する高校の例					①第1次 80% ②第2次 20%	
選抜の種類	特色選抜(第1次選抜) 国語・社会・数学・理科・英語の5教科					共通選抜(第2次選抜) 国語・社会・数学・理科・英語の5教科						
学力検査	国語(150点)	数学(150点)	英語(150点)	で傾斜配点を実施		数・英については応用的な出題を含む「学校選択問題」を実施できる					「共通選抜」の場合は3通りから高校が設定 1年次[1]:2年次[1]:3年次[1]=135点満点 1年次[1]:2年次[1]:3年次[2]=180点満点 1年次[1]:2年次[1]:3年次[3]=225点満点	
調査書	学年間の比率	1年	2年	3年	基本点	学年間の比率	1年	2年	3年	基本点		
		1	2	3	270		1	1	3	225		
面接	実施方法	集団面接「個人面接」または「集団面接」を実施										①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の数値を使って次ページで計算方法を説明
	自己評価資料(学校独自項目)	〇〇〇にどう取り組むか書いてください。										「特色選抜」の場合は[ ]内の合計10まで自由な組み合わせが可能 (例)1年次[1]:2年次[2]:3年次[4]=315点満点 1年次[2]:2年次[2]:3年次[5]=405点満点
	評価の観点	〇〇〇に取り組む意欲、実践する力										面接の資料として全員が「自己評価資料」を提出 共通の設問は「これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、高等学校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己PRなどについて、自分の考えを書いてください」 「選抜実施内容」に「学校独自項目」が記載されている場合は、その内容を「自己評価資料」に追記して提出する
	評価の観点	意欲、姿勢、具体的な計画性があるか。										
特色検査	実施内容	実施する 「特色選抜」の場合は「特色検査」の実施が可能 芸術系・体育系の学科・コースで「実技検査」が実施されるほか、「英語による問答(実技)」「作文(小論文)」の実施が可能 「作文(小論文)」は時間30~60分、字数600~1000字が原則										
	評価の観点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
選抜資料配点	学力検査	調査書	面接	特色検査	合計	学力検査	調査書	面接	特色検査	合計		
	650	180	30	40	900	500	200	60	0	760		
第2志望	なし										「特色選抜」の場合は下記の範囲内で配点を設定可 「調査書+面接」≤「学力検査基本点×1.5倍(750点)」 「特色検査」≤「学力検査基本点+調査書+面接」 「共通選抜」の場合 調査書は「200点」「300点」「400点」の満点に換算 面接は「30点」「60点」の満点に換算	
その他	外国人特別選抜を実施する										複数の学科・コース・系がある高校では第2志望を出願できる場合あり	

\*2027年春「各高等学校の選抜実施内容」の確定版は埼玉県教育委員会ホームページで5月公表予定。

押さえておきたい基礎知識 **2 合計点を求めてみよう!**

前ページの選抜実施内容を参考に、合計点(p81「選抜実施内容」の選抜資料配点⑤⑩)を具体的に求めてみましょう。

**合計点はどうやって計算する?**

【(例) Aさんの得点】 p81 第1次選抜「特色選抜」①~④の場合

- 学力検査 国語80×1.5+社会75+数学50×1.5+理科65+英語70×1.5=440点/650点満点
- 調査書 学習の記録 1年34+2年36×2+3年38×3=(220点/270点満点)  
→180点満点に換算220÷270×180=147点/180点満点
- 面接 =25点/30点満点
- 特色検査 作文 =30点/40点満点



・学力検査の傾斜配点  
・調査書の換算点を加味

<第1次選抜>

学力検査	調査書	面接	特色検査	合計
440点 /650点	147点 /180点	25点 /30点	30点 /40点	642点 /900点

問題 では、第2次選抜のp81⑥~⑨になっている場合、Aさんの合計点は何点になるのでしょうか。(ア)~(エ)にあてはまる点数を計算してみましょう。

・学力検査の傾斜配点なし  
・調査書(1年[1]:2年[1]:3年[3])を200点満点に換算  
・面接の配点を30→60点に

<第2次選抜>

学力検査	調査書	面接	特色検査	合計
(ア)点 /500点	(イ)点 /200点	(ウ)点 /60点	共通選抜では対象外	(エ)点 /760点

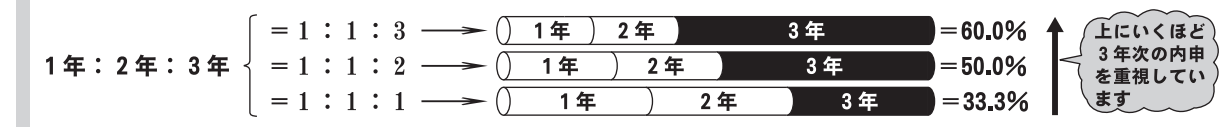
- 解答 (ア) 「学力検査」は傾斜配点をせずに合計するので、**340点**です。  
 (イ) 「調査書の扱い」は225点満点であるのに対し、200点満点に換算するので  $\frac{200}{225}$  倍します。したがって、 $184 \times \frac{200}{225} = 163.56$ 点。少数第1位を四捨五入するので、**164点**です。  
 (ウ) 「面接」は第1次選抜が30点満点であるのに対し、第2次選抜では60点満点なので、2倍します。したがって、 $25 \times 2 = 50$ 点です。  
 (エ) (ア), (イ), (ウ)の得点を合計します。 $340 + 164 + 50 = 554$ 点となります。

押さえておきたい基礎知識 **3 3年次の内申の重みは?**

内申(評定) → 各教科の成績を「5」「4」「3」「2」「1」で評価したもの  
 1学年の内申合計は、5(段階評価)×9(教科)=45(点満点)

調査書の内申は学年別に記載され、内申の重みづけは学校ごとに決めることができます。たとえば、県立浦和(2027年)は1年:2年:3年=1:1:2で、3年次の内申を重く見ているといえます。なお、3学期制の中学校における3年次成績については、1・2学期の成績(前期・後期制の場合は前期の成績に可能な限り後期の成績を加味)が記載されます。受験生の調査書の内容は3年次の12月~2月上旬に「学習の記録等通知書」として、担任の先生から保護者へ通知されるようになっています。

**全体に占める3年次の内申の重み(%)**



★p81「選抜実施内容」における「調査書」の得点は、以下のように計算されます。

(Aさんの調査書の得点)	1年次内申	2年次内申	3年次内申
内申9科合計	34	36	38(満点各45点)

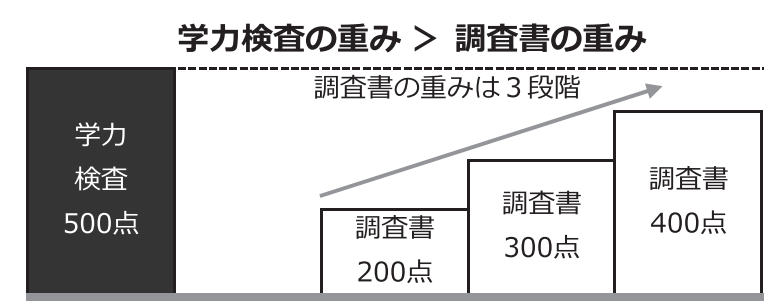
「1年:2年:3年」=「1:1:2」の高校の場合、  
**Aさん**  $34 \times 1 + 36 \times 1 + 38 \times 2 = 146$ 点  
 (満点  $45 \times 1 + 45 \times 1 + 45 \times 2 = 180$ 点)

→内申の学年ごとの比率は、高校によって異なる

押さえておきたい基礎知識 **4 学力検査と調査書の重要度は?**

調査書点 → 共通選抜の場合  
 ① 1年1:2年1:3年1 = 135点満点  
 ② 1年1:2年1:3年2 = 180点満点  
 ③ 1年1:2年1:3年3 = 225点満点  
 ①②③を<200点><300点><400点>の満点に変換

共通選抜の場合、学力検査500点満点に対して、調査書の配点は200点・300点・400点のいずれかに換算。調査書を上限の400点満点とした場合でも、学力検査の扱いが大きくなる配点となっています。多くの高校では1次と2次で調査書の換算点を変えて選抜しています。



○共通選抜の例  
 <第1次選抜>  
 学力検査500点+調査書**300**点  
 ↓  
 <第2次選抜>  
 学力検査500点+調査書**200**点

難易度早見表  
 入試動向  
 高校の選び方  
 偏差値とは  
 公立入試私立入試  
 併願作戦  
 公立入試システム  
 部活動  
 私立学費  
 主要校一覧

# 1 「共通選抜」はどのように選抜される？

**総合得点** → 学力検査500点 + 調査書200~400点 + 面接30~60点 = 730~960点満点

配点比率 = 「学力検査52~68%」「調査書26~43%」「面接3~8%」

各高校で6パターンの配点を組み合わせて1次選抜・2次選抜を実施

↑ 学 力 重 視	①	↓比率「学力68%」「調査書27%」「面接4%」	学力検査 500	調査書 200	面接 30	合計 730 点満点
	②	↓比率「学力66%」「調査書26%」「面接8%」	学力検査 500	調査書 200	面接 60	合計 760 点満点
	③	↓比率「学力60%」「調査書36%」「面接4%」	学力検査 500	調査書 300	面接 30	合計 830 点満点
	④	↓比率「学力58%」「調査書35%」「面接7%」	学力検査 500	調査書 300	面接 60	合計 860 点満点
	⑤	↓比率「学力54%」「調査書43%」「面接3%」	学力検査 500	調査書 400	面接 30	合計 930 点満点
	⑥	↓比率「学力52%」「調査書42%」「面接6%」	学力検査 500	調査書 400	面接 60	合計 960 点満点

調査書・面接の配点が最大(⑥)の場合でも学力検査比率は52%。どのパターンでも学力検査を重視した選抜となっている。



## ○2027年春の例 (2025年12月「選抜実施内容」暫定版より)

- 1次：①[学力500・調査書200・面接30] 2次：②[学力500・調査書200・面接60] → 浦和西・富士見  
 1次：③[学力500・調査書300・面接30] 2次：①[学力500・調査書200・面接30]  
 → 大宮(普)・越谷・越谷北・所沢北・豊岡・和光国際(普)・蕨・川口市立・市立浦和  
 1次：③[学力500・調査書300・面接60] 2次：④[学力500・調査書400・面接60]  
 → 上尾南・鴻巣女子・越谷東・狭山青陵・草加西・新座・ふじみ野・三郷・市立川越  
 1次：⑥[学力500・調査書400・面接60] 2次：②[学力500・調査書200・面接60]  
 → 久喜・白岡・妻沼

## ○調査書200点満点と400点満点で選抜はどう変わる？

「1年1：2年1：3年2(180点満点)」として、200点満点に換算するα高校と、400点満点に換算するβ高校の場合  
**Bさん**：1年35+2年37+3年39×2 = 150点    **Cさん**：1年33+2年35+3年36×2 = 140点 → 10点差  
**α高校**    **Bさん**：150÷180×200 = 167点    **Cさん**：140÷180×200 = 156点 → 11点差  
**β高校**    **Bさん**：150÷180×400 = 333点    **Cさん**：140÷180×400 = 311点 → 22点差  
 ⇒ 180点満点でのBさんとCさん差「10点」は、α高校では「11点差」に、β高校では「22点差」に拡大。  
 CさんがBさんに学力検査で追いつくためには、α高校では11点、β高校では22点が必要になる。

# 2 「特色選抜」はどのように選抜される？

**総合得点** → 学力検査500点~800点満点

+ 「調査書135点満点~ + 面接30点満点~ (合計点の上限あり)」

= 665点満点~ (特色検査実施の場合は追加配点あり)

※学力検査は3教科まで「150点」「200点」の傾斜配点を設定可

※調査書と面接の配点合計は学力検査の基本点500点の1.5倍以内に設定

「調査書+面接」 ≤ 「学力検査×1.5倍 (750点)」

※特色検査の配点合計は学力検査基本点500点・調査書・面接の配点合計以内に設定

「特色検査」 ≤ 「学力検査+調査書+面接 (500+750=1250点)」

各高校で上記の範囲内で自由に配点を組み合わせて1次選抜・2次選抜を実施

## ○2027年春の例 (2025年12月発表「選抜実施内容」暫定版より)

↑ 学 力 重 視	⑦	↓比率「学力81%」「調査書16%」「面接3%」【浦和第一女子2次】	学力検査 700	調査書 135	面接 30	合計 865 点満点	
	⑧	↓比率「学力74%」「調査書22%」「面接4%」【県立浦和1次】	学力検査 600	調査書 180	面接 30	合計 810 点満点	
	⑨	↓比率「学力67%」「調査書30%」「面接3%」【川越女子1次】	学力検査 800	調査書 360	面接 30	合計 1190 点満点	
	⑩	↓比率「学力63%」「調査書26%」「面接11%」【越谷南(外)1次】	学力検査 600	調査書 250	面接 100	合計 950 点満点	
	⑪	↓比率「学力59%」「調査書37%」「面接4%」【春日部1次】	学力検査 500	調査書 315	面接 30	合計 845 点満点	
	⑫	↓比率「学力54%」「調査書33%」「面接13%」【久喜北陽1次】	学力検査 500	調査書 300	面接 120	合計 920 点満点	
	⑬	↓比率「学力49%」「調査書26%」「面接6%」「特色19%」【三郷北2次】	学力検査 500	調査書 270	面接 60	特色検査 200	合計 1030 点満点
	⑭	↓比率「学力45%」「調査書33%」「面接22%」【鷺宮1次】	学力検査 500	調査書 360	面接 240	合計 1100 点満点	

配点は高校ごとにさまざま。⑦は調査書の配点を下限に設定した例。⑦~⑩は学力検査の傾斜配点あり。

⑬は特色検査を実施する例(2027年春に普通科で作文を実施するのは1校のみ)。



## ○1次・2次選抜の組み合わせ例 (2025年12月「選抜実施内容」暫定版より)

- 1次・2次「特色」：浦和・浦和第一女子・大宮(理)・春日部・川越・川越女子・所沢・所沢北(理)・熊谷  
 1次「特色」・2次「共通」：岩槻(国)・浦和東・大宮南・北本・熊谷女子・坂戸西・飯能・市立浦和南



学校独自項目の例（2025年12月「選抜実施内容」暫定版より）

浦和：あなたの考える「時代の求めるリーダー」とは何ですか、そうしたリーダーを目指す上で、高校入学後にどのようなことに取り組みたいと思いますか

越谷南：課外活動（部活動やクラブ活動）または資格取得等において、目標を達成するためにした努力の過程を体験や成果を交えて書いてください

4 特色検査について知っておこう！

実技検査 → 芸術系学科・体育科(コース)などで実施

2027春実施校(2025年12月「選抜実施内容」暫定版より)

伊奈学園総合(スポーツ科学系・芸術系) 大宮光陵(美術・音楽・書道) 大宮東(体育) 越生翔桜(美術表現)  
芸術総合(美術・音楽・映像芸術・舞台芸術) ふじみ野(スポーツサイエンス) 松伏(音楽)

▶合格者を決めるとき、点数化して合計点に加える

5 絶対評価？ 相対評価？

絶対評価に変わり、5と4の割合が拡大

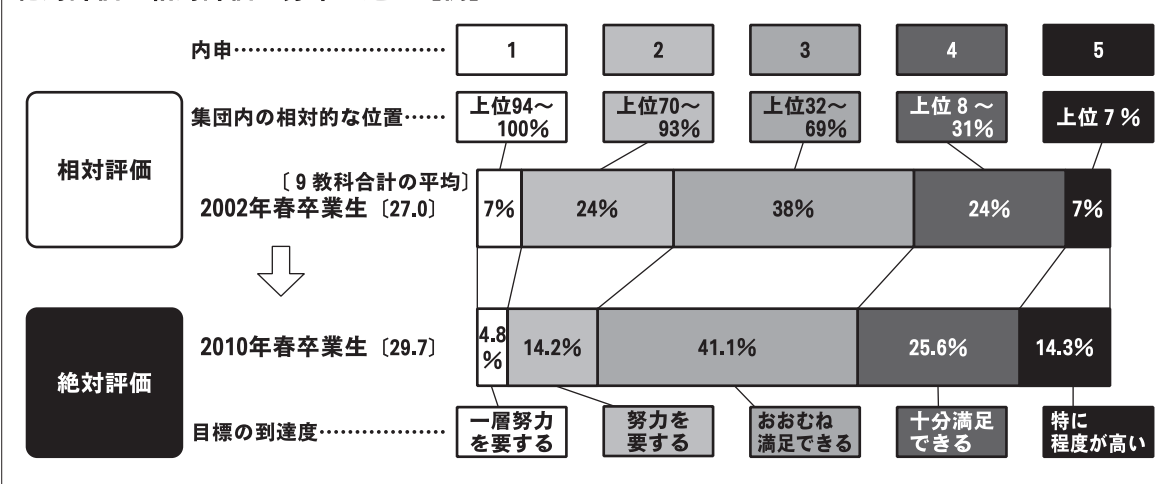
内申(評定)は2003年春卒業生以降、相対評価から絶対評価に変わりました。相対評価での5段階の評定は「5」「1」各7%、「4」「2」各24%、「3」38%という配分が決まっていた。一方、絶対評価では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価観点から、達成度によって5段階で評価されます。

グラフは、県内公立中学校の2002年と2010年春卒

業生の第3学年1学期の9教科平均について、各内申の割合を示したものです(2010年は公立中学校83校抽出によるデータ)。相対評価と比べて「5」「4」の割合が大きくなり、「2」「1」が小さくなっています。つまり、絶対評価に変わって、内申が高めにつけられている傾向があることがわかります。

県は2011年から調査を取りやめていますが、大きな変動はないと思われます。

絶対評価と相対評価の分布の違い【例】



6 高校再編、入試制度の移り変わり

埼玉県では、少子化への対応と公立高校の活性化を目指し、高校の再編が進められてきました。「21世紀いきいきハイスクール推進計画」などにより1999年に153校あった県立の全日制高校は134校に削減(2018年時点)。さらに2029年までに121~124校程度、2038年まで

に112~116校程度に再編する検討が進められています。一方、入試制度は2010年に大変革が行われた後、2012年に前期・後期募集が1本化され、2017年には「学校選択問題」を導入。2027年には「面接必須化」「特色選抜新設」などの変更が予定されています。

年度	おもな学校改革(国の推進事業を含む)	入試制度のおもな変更点
2009年	・1994年…普通科に推薦導入 ・2005年…「推薦」→「前期募集」, 「一般」→「後期募集」, 「地域推薦」→「地域選抜」に移行	・1996年…地域推薦を導入 ・2004年…学区撤廃
2010年(平成22年)	新校開校 蓮田松嶺(蓮田・菫浦を統合), 栗橋北彩(栗橋・北川辺を統合), 吹上秋桜(吹上・鴻巣(定時制)・熊谷女子(定時制)・深谷商業(定時制)を統合) S S H (～2014年) 春日部	選抜方法・入試日程を繰り下げ ・前期募集枠を総定員の80%程度に拡大 ・前期で5教科の学力検査を実施・後期の学力検査を5→3教科に ・前後期ともに各校選抜基準を事前に公表 ・学力検査, 調査書(学校により実技検査または面接を実施)の各得点に各校が定める定数を乗じた換算点の合計値に基づく選抜に(「学力検査」:「調査書」の比率は, 1次選抜では「6:4」～「4:6」, 2次選抜では「7:3」～「3:7」からの選抜)
2011年(平成23年)	推進校 進学指導重点推進校(～2012年): 県立浦和, 浦和第一女子, 浦和西, 大宮, 春日部, 県立川越, 川越女子, 熊谷, 熊谷女子, 越谷北, 不動岡 S S H (～2015年) 県立川越, 川越女子, 熊谷, 不動岡	
2012年(平成24年)	S S H (～2016年) 浦和第一女子, 熊谷女子, 熊谷西, 松山	選抜方法 ・入試が, 2回(前期募集・後期募集)から1回(一般募集)に
2013年(平成25年)	新校開校 幸手桜(幸手商業・幸手を統合), ふじみ野(大井・福岡を統合), 吉川美南(吉川・草加(定時制)を統合), 豊岡(豊岡・入間を統合), 本庄(本庄・本庄北を統合)	
2014年(平成26年)	学科改編 市立大宮北…理数科を設置 S G H (～2018年) 県立浦和	
2016年(平成28年)	学科改編 所沢北…理数科を設置 熊谷…単位制に移行 三郷…普通科・情報コースを一括募集に S S H (～2020年) 市立大宮北 S G H (～2020年) 浦和第一女子	
2017年(平成29年)	S S H (～2021年) 浦和第一女子, 川越女子, 熊谷, 不動岡, 松山	選抜方法・学力検査の社・理を各40分→各50分に ・学力検査の数・英で一部に「学校選択問題」の実施が可能に
2018年(平成30年)	新校開校 川口市立(市立川口・川口総合・県陽を統合) 募集停止 市立大宮西(2019年に中等教育学校へ移行)	
2021年(令和3年)	再編 川口市立…併設中学を開校	
2022年(令和4年)	S S H (～2026年) 川越女子, 市立大宮北, 川口市立	
2023年(令和5年)	新校開校 飯能(飯能・飯能南を統合), 児玉(児玉白楊・児玉を統合) S S H (～2027年) 浦和第一女子, 越谷北, 松山	
2024年(令和6年)	募集停止 和光, 岩槻北陵, 皆野, 鳩山, 八潮, 浦和工業 S S H (～2028年) 所沢北・熊谷西	
2026年(令和8年)	新校開校 和光国際(和光国際・和光を統合), 岩槻(岩槻・岩槻北陵を統合), 秩父(秩父・皆野を統合/国際教養科新設), 越生翔桜(越生・鳩山を統合), 八潮フロンティア(八潮南・八潮を統合), 大宮科学技術(大宮工業・浦和工業を統合) S S H (～2030年) 春日部	選抜方法・調査書の部活動に関する記入を「その他」の欄に移動
2027年(令和9年)～[予定]		選抜方法《2027年》・面接を必須化(自己評価資料を提出) ・調査書の記載を「学習の記録」のみに ・特色検査(実技・作文)を加えた判定が可能な「特色選抜」の実施が可能に

S S H …文部科学省が指定するスーパーサイエンスハイスクール S G H …文部科学省が指定するスーパーグローバルハイスクール

難易度早見表  
入試動向  
高校の選び方  
偏差値とは  
公立入試私立入試  
併願作戦  
公立入試システム  
部活動  
私立学費  
主要校一覧